

#### 四、大東塾ノ對軍部策動ノ現況 (昭和十九年五月陸密第二二四五號參照)

東京都澁谷區代々木西原町九五七

大東塾々頭 影 山 正 治

(當三十七年)

ハ年少ノ頃ヨリ維新傳記ニ興味ヲ有シ大化ノ改新、建武ノ中興、明治維新等ノ史實竝ニ古事記、日本書紀等神話ノ研究ニ没頭シ居ル中途ニ矯激ナル革新思想ヲ抱持スルニ至リ神兵隊事件ニ際シテハ國學院大學生數名ヲ率キ之ニ參加シ又昭和十五年ニ於テハ同志ヲ指揮シ米内首相以下ノ重臣暗殺ヲ企圖(所謂七・五事件)セルカ現在ハ「大東塾」及「新國學協會」ヲ中心ニ同志約三十七名、會員約五百名ヲ擁スル一陣營ヲ形成シ「生命奉還」「天皇歸一」ヲ高唱シ「我等ヨリ昭和維新ノ奉行者ナリ」ト自己ノ主張貫徹ニ邁進シアリテ右翼陣營中ノ直接行動派ト目サレアリ

而シテ最近戰爭ノ長期化、戰況ノ一部膠著ニ伴ヒ「現内閣ハ閣僚中ニ何等期待スヘキ人物ナク只催カニ軍ヲ背景トスル東條首相ノ力ヲミニ依リ辛シテ存續シアリ随ツテ其ノ政策ハ動モスレハ獨善狹量ニシテ而モ彌縫的、糊塗的ニ終始シアルフイテ何等期待スヘキモノナシ而モ國內ニハ今尙親英米の乃至自己主義的反國策分子存在シ念頭ニ國家ナク只管自己ノ利益ニノミ終始セントシ聖戰ノ完遂ヲ著シク妨害シアリ思フニ現下ノ戰局ヲ背負ツテ立ツハ軍部以外ニナキヲ以テ軍ハ管ニ外敵ノ擊滅ニ專念スルノミナラス宜敷ク國內ニ對シテモ尊皇攘夷ノ精神ヲ發輝シ昭和維新ノ完遂ヲ期スヘキナリ」トナシ塾同人ノ入隊ヲ契機トシ或ハ著書機關誌ノ郵送等ノ方法ニ依リ軍人軍屬就中青年將校ノ獲得ヲ策シツツアルノミナラス其ノ傾向ハ最近頓ニ活潑トナリツツアリ

即チ四月一日現在

○塾同人或ハ塾出身者ニシテ在隊申ノ者ハ

陸軍 一九名

海軍 三名

計 二二名

アリ之等ハ機會ヲ索メテ大東塾或ハ新國學協會ノ主義理念ヲ強調シ同志ノ獲得ニ努メアリ

○塾ノ主義主張ニ共鳴シ現ニ通信連絡ヲ爲シ或ハ嘗テ接觸セシコトアル軍人軍屬ニシテ憲兵ノ知得セルモノハ

將校(含見習士官) 二二名

陸軍 將校生徒 一六名

下士官兵 一一七名

軍屬 八名

一六三名

海軍 下士官兵 三二名

軍屬 二名

三六名

計 一九九名

ナルカ共ノ中ニハ影山ニ私淑シ同志トシテ之ト行動ヲ共ニセント決意シ或ハ相當強度ノ思想的啓蒙ヲ受ケアルモノ  
アル現況ナリ

而シテ右翼分子ノ對軍思想策動ハ二、二六事件以後ニ於ケル軍ノ適切ナル措置ニ依リ封殺セラレ從ツテ現役軍人ノ不  
穩矯激行動モ昭和十五年ニ於ケル伊藤少佐ノ神戸領事館襲撃未遂事件以來全ク其ノ跡ヲ絶テ何レモ本分ヲ恪遵シテ第  
一線ニ於ケル戰鬥ニ或ハ國內ノ警備乃至教育ニ只管軍務ニ精勵シアリテ特ニ注意ヲ要スル事象ヲ認メサリシカ彼上ノ  
如キ大東塾最近ノ軍人ニ對スル策動ハ之ヲ二、二六事件前ニ於ケル右翼ノ動向ニ鑑ミルトキ輕視ヲ許ササルモノアリ  
就中現戰局下ニ於ケル國內ノ諸情勢ニ照シテ而モ今後戰爭ノ長期化ニ伴ヒ二部ニ於テ政府ノ戰爭指導其他諸政策ニ對ス  
ル批判的論議或ハ和平冀求氣運乃至策動ノ據頭ナキヲ保シ難キ客觀情勢ヲ想フ時斯種矯激分子ノ軍人ニ對スル思想策  
動ハ其ノ及ホスヘキ影響ノ甚大ナルニ鑑ミ般ニ注意警戒ヲ要スルモノアリト認ム

一、對軍部策動ノ一端

1、塾生ノ入隊間ニ於ケル同志獲得策動

塾生 武藤包州

ハ昨年十二月二日西部隊〇〇部隊ニ應召三月九日除隊セルモノナルカ在隊間左ノ如ク策動セリ

○某見習士官ニ對シ

見習士官某ハ中隊長ヨリ特ニ武藤ノ動靜觀察ヲ命セラレアリシカ武藤ハ本名カ同郷ニシテ殊ニ中學時代思想方  
面ノ雜誌ヲ購讀シアリタルヲ想起シ何等カノ方法ヲ以テ接近セント腐心中偶一月中旬同見習士官ヨリ大東塾宛  
ノ手紙ニ同シ呼出ヲ受ケ大東塾ノ内容ヲ訊サルルヤ  
「大東塾ノ運動ハ歌ニ依ル思想啓蒙ナリ」

ト前旨シ大東塾ノ現行在ヒツツアル運動狀況ヲ説明其ノ正シキヲ主張シ暗ニ加入ヲ懇願セルカ更ニ承諾ヲ受クル事ナク無斷在東京大東塾ニ連絡シ同見習士官宛機關誌「ひむがし」一ヶ年分ヲ二月二十五日郵送越セシメタリ

○某准尉ニ對シ

某准尉ハ東京豫備士官學校ヨリ昨年十一月轉屬シ來リタルモノナルカ武藤ハ同准尉カ熱血性ニ富ミ劍道三段銃劍術二段ノ猛者ナルヲ見込ミ接近ノ機會ヲ窺ヒアリタル處一月十五日同准尉カ中隊ノ軍歌演習實施終了後居室ニ歸リタル直後之ヲ訪問同准尉カ多忙ノタメ相手ニセサルヤ其ノ日ハ其ノ儘退室シ前記見習士官同様何等承諾ヲ受クルコトナク無斷大東塾ニ連絡シ二月二十五日同准尉宛機關誌「ひむがし」一ヶ年分ヲ郵送越セシメタリ

2、軍病院内ニ於テ看護婦ヲ同志トシテ獲得更ニ入院患者ニ策動セシム

塾同人 川口喜一

右ハ昭和十七年末戦傷ニ依リ○○○陸軍病院ニ入院加療中院内ニ於テ大東塾ノ主義主張ノ宣傳啓蒙ヲ策スルヤ之カ爲ニハ先ツ看護婦ヲ利用スルニ如カストナシ當時自己ノ受持タリシ

日赤看護婦 鶴 卷 榮

カ文學ニ興味ヲ有シアルニ著目シ所持シアリタル

○御民われ (塾頭 影山正治 著)

○古典論 (塾同人 保田典重郎 著)

○ひむがし (新國學協會機關誌)

等ヲ貸與セルカ之ニ興味ヲ覺エタル鶴卷ハ機關誌「ひむがし」ニケ年分ノ購讀料ヲ前拂シテ註文スルト共ニ

○ 維新者ノ信條 (影山正治 著)

○ 歌道維新論 (右 同)

其ノ他大東塾關係者ノ著書四冊ヲ購入讀スルニ至レリ

而シテ川口ハ更ニ鶴卷看護婦ニ對シ

「大東塾ノ人テ貴女ニ留會シ度イ人カ居ルカ面會ニ來タラ會ツテ貰ヘルクラウカ?.....云々」

ト巧ミニ

塾同人 横 堀 謹 一

ヲ紹介シ爾來横堀ハ前後八回ニ互リ病院ニ鶴卷ヲ訪問シ之カ獲得ニ努メタリ

○ 又昭和維新ハ經濟維新ナリトテ

「昭和維新ノ發端ハ明治維新ニアリ明治維新ニ於テハ政治方面ノミ維新サレタカ昭和ノ御代ニ於テハ經濟方面

ノ維新カ斷行サレネハナラヌ」

「日本ノ國民ハマタノ眞劍ニナツテ居ラナイ時局ヲ利用シテ私財ヲ肥スコト許リ考ヘテ居ル財閥カ澤山居ル

共ウ言ツタ人々カ眞ニ時局ヲ認識覺醒シ元寇ノ時ノ様ニ一丸トナツテ國難ニ當ル時コソ神風カ起ルノテアル

「アツツ島始メ數回ニ互ル玉碎ハ神罰カ國民ハ唯泣キ悲シンテハ不可ナイソレカ神罰テアル事ニ氣付キ一日モ

早ク眞ノ日本人トシテ目覺ムヘキテアル云々」

等ト言葉巧ミニ思想啓蒙ヲ行ヒタルカ益、大東塾ノ指導精神ニ共鳴セル鶴卷看護婦ハ更ニ他ノ入院患者ニ機關誌

「ひむがし」ヲ購讀シ獎メ大東塾ノ主義主張ヲ宣傳シアリタリ

(註) 一、川口喜一ハ現在召集解除セラレアリ

二、横堀謙一ハ其後召集ヲ受ケ現在館山海軍砲術學校ニ分道中

三、鶴巻看繼婦ノ勳勳ニ關シテハ嚴視中ナリ

3、軍工廠内ニ於ケル軍工員ニ對スル策勵

塾頭實弟 影山龍夫

塾生 大橋正明

ハ〇〇〇陸軍造兵廠〇〇〇製造所ニ夫々勤務シアリタル處兩名相謀リ同工場工員ニ對スル思想啓蒙ヲ企圖シ先ツ  
正員中文學、讀書ニ趣味ヲ有シアル者ヲ物色シタル上塾發行ノ著書、機關誌ヲ貸與翻讀セシメ之ニ傾心スル者ヲ  
認ムルヤ塾主催ニ係ル研究會、座談會ニ出席ヲ獎ムル等積極的ニ運動ヲ爲シ遂ニ四名ノ共鳴者ヲ得タリ  
而シテソノ中最モ感銘ヲ受ケタル

軍屬工員 西尾幸雄

(當二十年)

ハ展、在豊橋市ノ影山正治實父影山庄平宅ヲ訪問シ其ノ指導ヲ受ケアリシカ塾頭敬慕ノ念昂スルヤ大東塾ニ入塾  
シテ直接其ノ教ヲ受ケシト客年十月二十二日影山正治カ實父宅ニ歸省シアルヲ聞知スルヤ往訪ノ上入塾ヲ懇願  
シ

「現在勤務シテ居ル處ヨリ手カ切レタラ上京シテ來イ」

四二

トシ返答ヲ得ルヤ益々決心ヲ固メ退所ノ方法ヲ考究シアリタルカ偶々鞆同人藤原正志ヨリ「オ前カ決心シ本當ニ  
入塾シヨウト思フナラハ入塾ノ道ハ自ラ開ケル筈ナリ」

ト聞カサル縁ニ遊亡ヲ決意三月八日無断上京三月十一日大東塾ニ至レリ

而シテ大東塾ニ於テハ一先假入塾ノ身分トシ又影山庄平ハ正治ヲ依頼ニ基キ四男英雄ヲ同伴西尾所屬ノ工場長ニ  
面會ヲ求メテ西尾ノ解雇方交渉シタルモ拒絶セラレ西尾亦製造所側ノ命ニ依リ三月二十二日歸廠セリ

(註) 一、所屬製造所長ハ四月十一日西尾ヲ重營倉ニ移シ又同シク感化ヲ受ケタル他ノ三名ヲ夫々諭示シテ

大東塾トシ關係ヲ斷クシムルト共ニ影山龍夫ヲ解雇セリ

二、大橋正明ハ三月十七日教育召集ニ依リ中部第八部隊ニ入隊セリ

三、影山英雄ハ其後中部第四十九部隊ニ應召セリ

二、青年將校(各將校生徒)ニ及ホシタル特殊事例(本年一月以降)

將校生徒十六名ハ現下ノ帶烈ナル戦局ニ處スヘキ將校タルノ信念確把ニ焦慮ヲ餘リ影山ノ著書ヲ

齎讀其ノ思想ニ共鳴ス

士官候補生 第五十七期生 十名

(四月二十日陸士卒業)

換科士官學校生徒 第五十八期生 二名

同 第五十九期生 四名

等ハ現下ノ帶烈ナル戦局ニ處ス可キ將校タルノ信念ヲ確把スヘク焦慮ヲ餘リ學校幹部ノ訓育ニ惟ラス刺戟的且直裁

四三

的ナル指導ヲ求メアリシ處或者ハ影山正治ノ著書「七、五事件ノ公判記録」ヲ翻譯シテ、彼等ハ尊皇絶對道ヲ實踐セ  
ルモノナリ」ト敬服シ又或者ハ新國學協會機關紙「ひむがし」其ノ他影山ノ著書ヲ耽讀シテ其ノ革新的國體觀ニ共鳴  
シ其ノ中一部ノ者ハ外出時大東塾ニ影山ヲ訪問直接其ノ指導ヲ受クルニ至ル

某中尉ハ屢々大東塾ヲ訪問國家革新ノ急務ヲ論シ且影山ノ紹介ヲ得テ士官候補生ニ策勵ス

○本部附 ○ ○ 中尉 (五四期)

ハ豫テヨリ國家及國軍ノ現狀ニ不滿ヲ抱キ同僚及部下等ニ「皇軍精新」昭和維新等ト革新ノ必要ヲ強調煽動シアリ  
シカ昨年四月科學々校ニ分遣ノ爲内地ニ歸還スルヤ益、其ノ必要ヲ痛感スルニ至リ右翼偽裝共產主義者タル航空通  
信學校附某曹長ト親交頻々同校ヲ訪ネテ下士官數十名ニ對シ軍紀風紀紊亂ノ實相ヲ捉ヘテ軍内革新ノ必要性ヲ強  
調シ之ヲ實現ノ爲ニハ階級ヲ如何ヲ問ハズ同憂具眼ノ士ハ相携ヘテ之ヲ革新ニ邁進スヘキナリ」トシ横斷的結成ヲ  
圖リ又屢々大東塾々頭影山正治其ノ他ノ右翼分子ヲ往訪シテ國家革新ノ急務ヲ論シ又大東塾ニ士官候補生ノ出入シ  
アルヲ知ルヤ影山ノ紹介狀ヲ得テ士官學校ニ某候補生ヲ訪ネテ軍内國家ノ現狀ニ對スル不滿ヲ訴ヘ所謂皇軍「維新  
達願」ノ爲同志ノ結束強化ヲ策ス

某中尉ハ塾同人ノ依頼ヲ受ケ僞名ヲ以テ士官學校ニ潛入ス

西部隊 ○ ○ 中尉 (五四期)

ハ戰傷ノ爲歸郷療養中面識アル大東塾同人三浦義一ヲ伊豆温泉ノ別宅ニ訪問シ一月五日ヨリ同所竝ニ東京ノ本宅ニ  
寄食セルカ其ノ間三浦ヨリ士官學校ニ於ケル大東塾關係士官候補生ノ處罰問題及士官候補生ノ對大東塾態度ノ打診  
方依頼セラルルヤ一月十六日僞名ヲ以テ某候補生ニ面會ヲ求メ學校側ニ發見セラルルルヲ預間ヨリ逃走ス



三、軍人軍屬ノ熱死通信状況

昨年九月以降大東塾宛通信ヲ爲シタル在隊中ノ軍人軍屬ハ二百名ノ多數ニ上リアルカ其ノ中ニハ

○脱走シテ塾ト行動ヲ共ニセシ

○自由ノ身ナレハ足下ニ馳セ參シ度シ

○千里離ルルモ一身同體、神勅奉行、尊皇討幕ニ邁進セン

○皇國本來ノ大悲願ニ殉シ度シ

等ト思想的ニ極メテ注意ヲ要スル通信ヲ爲シタルモノアリ而シテ之等ハ何レモ所屬長所定ノ檢閲ヲ受ケアラサルニ鑑ミ塾關係者ノ通信ニ對シテハ特ニ注意ヲ要スルモノアリ

特殊ノ通信次ノ如シ

一身同體ノ決意ヲ披瀝セルモノ

○○第○○○部隊 浦川 尙 義

前略 吾等神風連の義擧は血涙を以て之に殉ずる道を邁進し度いと思ふ軍隊生活も塾精神を以て一貫する覺悟で  
ず或場合には軍隊を脱走しても塾と共にあり度いと思つて居りますれば更に更に御鞭撻を御願ひ致します

○○海軍病院 松田 捨 二

佛式公葬問題は皇國民として誠に痛憤に耐へず自由の身なれば足下に馳せ參し度きも病床にありては如何とも成  
し得ず同志の敢闘により悲願達成の一日も早からんことを祈る

中部○○○部隊 下村 威

四五

0292

待ちに待ちたる塾内の消息を送つていただいて何よりも嬉しかつた貴兄等が相變らず泰然と控へて居ると思ふと遙かに距つた軍中笑まじくも懐かしい貴兄等が未だに國內に鳴をひそめて居ると思へば日本人も大盤石だ五に祈の威力を信じつつ戦ひ斃れよう幾千里離るるも一心同體神勅奉行尊皇討幕に邁進せん

西部第〇〇部隊 川 添 洋 二

久方ぶりに大兄の勇姿を拜見致し誠に感激に堪へざるもの有之候小園、久木田兩氏より音信あり塾の模様を偲び申候動もすれば安逸に流れんとする自分に鞭打つて今後を貫かんと期し居り候千里を離てるとも一筋の生命に於て不離一體塾及先人の道統を繼ぐべく決心致し居り候

「昭和維新」遠願ノ爲獻身ヲ誓フモノ

西部第〇〇部隊 藤 井 一 郎

戦友幾人話しても切實に天子様を思ひ國を思ふ者なく唯一個人の爲の奉行に過ぎず小生而し塾長の言葉を體し維新に邁進し身は國籍にありてもあく迄草莽の士を以て維新の大道に斃れる覺悟です

〇〇〇司令部 佐 藤 新 平

桑原參謀殿の身上御案じ致す時強力な實に力強い精強百萬の味方を得たとも言ふべき大兄の深い暖かい愛情を知る悦びで一杯です桑原參謀殿のためにもこんな有難い事はありません思想の據り所のない時に最後に先生の許に駆け込むべき所に駆け込んだのに外ありません小生身を以て維新のために進みます

満洲第〇〇〇部隊 山 本 周 造

尊皇攘夷の道に立つて現在兵の位置にあります時實に多くの事を曾て知らざりし多くの事を知り悲願に心が如實

に躍動するを覺えます。維新難中の難を行ふこと俗論を斬ること唯険しい道を行く覺悟です。

影山ヲ崇拜自己ノ心境ヲ訴フルモノ

「二ツの戦友」を読み學窓を出て直ちに入隊した私は日本を背負つて立つ青年の道は影山先生の精神力を自己の生命力として行くより他に道は無いと確信しました。「維新者の信條」二七・五事件記録「大至急御送り下さい」

〇〇海軍病院 二 官 正 夫

塾長先生愈々御健勝にて國事に御奔走の事と遠察致します。貴下の熱血の著書を拜見し血の沸るを覺え屍を戰場に晒し得ざりし不忠の臣が傷疲軍人として國家社會の厚情に甘え餘生を送るを潔とせず我が命ある限り否生き變り死に變り皇軍本來の大悲願に殉じて行き度いと存じます。

〇所見

一、皇軍將兵ハ 天皇親率下鞏固ナル軍ノ團結ノ中ニ在リテ一意本務ヲ遂行スヘキモノナルハ明カニシテ次官通牒ノ趣旨モアリ軍ノ團結ヲ破壞スルカ如キ策動ハ斷乎排擧スヘキナリ

二、天皇親政 天皇親率ノ意義ヲ誤解シテ中間機關ヲ排擧セントスルカ如キ思想言動ハ誤レルモ甚シト謂ハサルヘカラス即チ「其司々をこそ臣下等は任まふれ其大綱は朕親之を攬り背て臣下は委ぬべきものにあらば」ノ御諭シニ則リ指導ヲ誤ラサルコト肝要ナリ

三、將校及將校生徒ニ對スル策謀ハ前例ニ徴スルモ特ニ注意ヲ要スル所ニシテ關係上官ノ監督ヲ徹底センムルノ要アリ又病院工場等ハ外部ノ策動ノ乘スル虚隙多ク軍紀上ノ一弱點ナリ之カ監督ノ衝ニ在ル上級司令官等ニ於テ查察監察ヲ忽ニセサルコト肝要ナリ